



TITLE:

開会の辞

AUTHOR(S):

平田, 昌司

CITATION:

平田, 昌司. 開会の辞. 2015年度京都大学南京大学社会学人類学若手ワークショップ 東アジア若手人文社会科学研究者ワークショップ報告論文集 2016: 8-9

ISSUE DATE:

2016-06-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/215829>

RIGHT:

開会の辞

平田 昌司 (HIRATA Shōji) *

文学研究科の平田昌司と申します。今回は上海交通大学から 1 名、南京大学から 4 名、国立台湾大学から 2 名、中央研究院から 1 名をお招きして開催することが出来ました。心より歓迎の意を表します。

この催しの始まりと言うのは、今日ここにいらっしゃる中山さん、福谷さん、このお二人が 2010 年の夏に 60 日間、南京大学で言語研修を受けたことに始まります。言語の学習のために行ったわけですが、それに合わせて社会調査も行い、その際に南京大学の社会学系のご協力もいただきました。その時に通訳にあたられたのが、今日いらしている巫靚さんです。

その後、南京大学の社会学系との交流が続きまして、2011、2012、2013、2014、そして 2015 年度と 5 回目の開催となります。この間、ポスドクの方々や大学院生の方々が運営にあたってられました。今回のこの会議の主催に関しましても、どれだけの方がおいでになるのか、どんな主題になるのかも、私はまったく知りませんでした。ですから、教員はお金を用意するだけで、後は私は福谷さんの言う通りに動きました。今回の研究活動に関しても、交流活動に関しても、若い方が主体的に進めてくださればそれでうれしいです。

この活動に関しましては、もうひとつ特徴がありまして、他の研究会議に比べて、題目が非常にバラバラだということです。ただし、すべては人文科学、ないしは社会科学の範囲です。人文科学、社会科学というのは、自然科学にはない共通の特徴がありまして、自然科学の世界では自分たちの世界の外にあることを明らかにすることにより大きな関心があります。ただ、人文社会科学の場合、そうではなく、自分たちがなぜそういうことをしているのか、自分で自分を研究する、人間が人間を研究するということに、大きな共通の特徴があります。

現在では、いわゆる学会や、すでに研究者になっている人であればどの領域で仕事を探すか、それから、どの領域でお金をとるかということが重要な問題になってしまいがゆえに、活動が狭くなってしまいうという弱点があるかと思います。しかし、一見するとバラバラ、いわゆる学会とか、学科というものを少し離れた研究のやり方によって、お互いに新しい視点を得ることができます。これは今のあまりに専門化し過ぎてしまっている学問研究の状況を考えると、こうした方法をとることで、自分の関心のないものも学ぶ機会を得て、すぐではなくても、5 年後、または 10 年後に、みなさんがそれぞれ新しい研究題目というものを作り上げていくときに何らかの効果があるのではないのでしょうか。

ですから、たとえば京都大学の中でも、今回は文学、農学、教育学、それから人間・環境学、そして東南アジア研究所などが参加していますが、不断は必ずしも会う機会はありません。しかし、こうした機会を通じて新しい友人をつくることができます。

今日明日の 2 日間の議論、さらにその後に日本社会というものを実際に見ていただくことで、海外から来られた皆さんだけではなく、日本のみなさんにも収穫があることを期待して、ご挨拶を終わります。

* 京都大学大学院文学研究科教授。

开幕词

平田 昌司 (HIRATA Shōji) *

我是文学研究科的平田昌司。这次我们邀请到了来自上海交通大学的 1 位、来自南京大学的 4 位、来自国立台湾大学的 2 位、来自中央研究院的 1 位来宾参加会议。我衷心向大家表示欢迎。

本活动始于今天在场的中山老师和福谷同学两位于 2010 年夏天前往南京大学接受为期 60 天的外语研修活动。虽然他们是为了学习语言而前往南京，但同时还进行了社会调查，得到了南京大学社会学系的协助。当时担任翻译的，是今天在场的巫靓同学。

之后，我们继续与南京大学社会学系保持交流，在 2011、2012、2013、2014 年度召开了研讨会，今年 2015 年度迎来了第五次的举办。其间，博士后和研究生同学担任研讨会的筹办工作。关于本次会议的举办，有几位来宾，围绕怎样的主题召开，我在事前都完全不知道。所以，作为教员，我所作的仅仅是筹集资金，之后都是按照福谷同学的通知来行动。无论是这次研究活动还是交流活动，能够由年轻人为主体的来推动其进行下去，我感到十分高兴。

有关本次活动，还有一个特点，那就是与其它研究会议相比，题目非常分散。但是，所有的题目都在人文科学或者社会科学的范围之内。人文科学、社会科学有着一个自然科学所不具有的共同特点。在自然科学的世界当中，人们对探明自己的世界之外的事物有着更大的关切。但是在人文社会科学当中则并非如此，而是在自己为什么要这样做、自己来研究自己、人类来研究人类这一方面有着一大共通之处。

我认为，现在，由于所谓的学会或者已经成为学者的人们在何种领域中寻找工作、在何种领域中赚钱已经成为了一个很重要的问题，所以存在着活动范围日渐狭窄的弱点。然而，通过看上去比较分散、与所谓的学会、学科有一些距离的研究方法，我们互相之间可以得到新的观点。在考虑到当今变得过于专门化的学问研究的情况时，采用这样的方法，可以得到一个学习自己并不关心的知识的机会，即使不是马上见效，但是在 5 年后甚至 10 年后，大家在各自构建新的研究题目时，有可能会出现相应的效果。

比如说，在京都大学内部，这次有文学、农学、教育学、人间・环境学、还有东南亚研究所的来宾来参加会议，这些来宾平时不一定有相见的机会，然而通过这个机会可以交到新的朋友。

我期待通过今明两天的讨论和之后深入日本社会的考察，不仅是从海外来参会的各位来宾，日本的各位也能够有所收获。以此结束我的致辞。

(翻译 杨维公)

* 京都大学大学院文学研究科教授。